
操作手順

1、内部間仕切りマスターの設定

〔補助－マスター編集〕－〔内部間仕切マスター〕で設定します。



2、初期設定／端柄補正值設定の設定

〔初期設定－端柄補正值設定〕－「間柱受・頭繋ぎ」－【気流止】で柱に対する書き込み量などの加工情報を設定します。

※柱への気流止め欠きは入力設定 ¥ 加工設定 ¥ 柱への気流止め欠きの設定で行います。



3、内部間仕切りの配置

〔要素－内部間仕切〕で内部間仕切の範囲を指定します。



4、内部間仕切補正を生成

〔自動生成－内部間仕切補正〕で内部間仕切の端部の補正を決定します。

〔初期設定－端柄加工設定〕の「間柱受・頭繋ぎ」-「内部間仕切」設定対のばし量、クリアランスの設定を行います。



5、自動生成の「間柱受・頭繋ぎ」を生成します。

〔自動生成－間柱受・頭繋ぎ〕で内部間仕切りの領域に間柱受け、頭繋ぎを生成します。

間柱受・・・メインレイヤ 頭繋ぎ・・・サブレイヤ 1 気流止・・・サブレイヤ 2



6、自動生成の「端柄材加工生成」を実行します。

〔自動生成－端柄材加工生成〕を実行し、加工を決定します。

※加工データは頭繋ぎで出力されます。

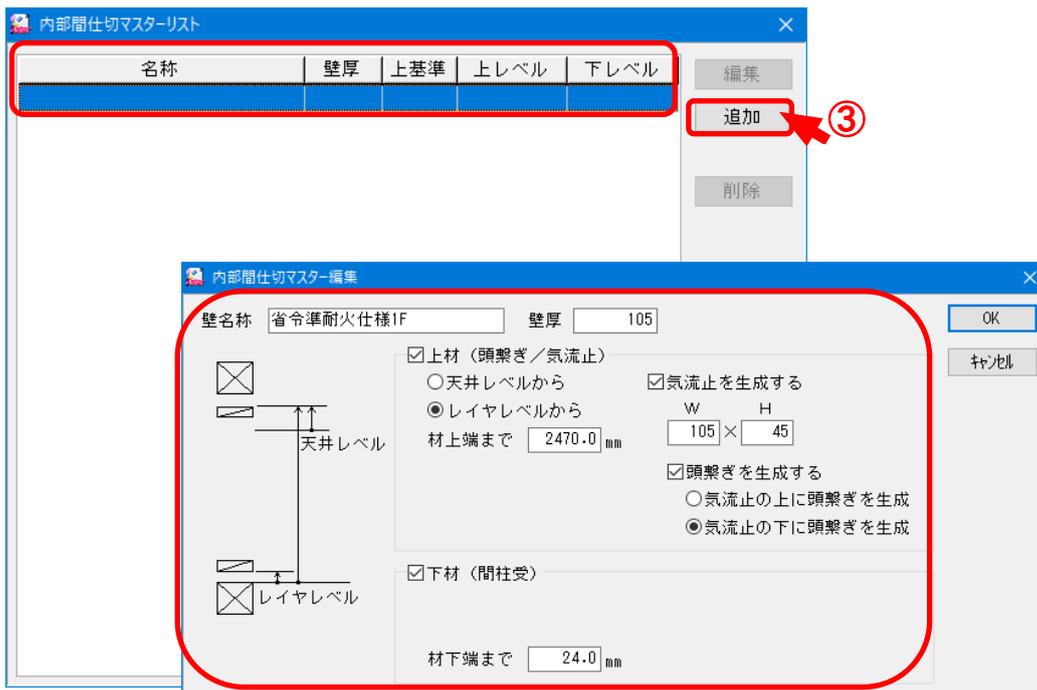
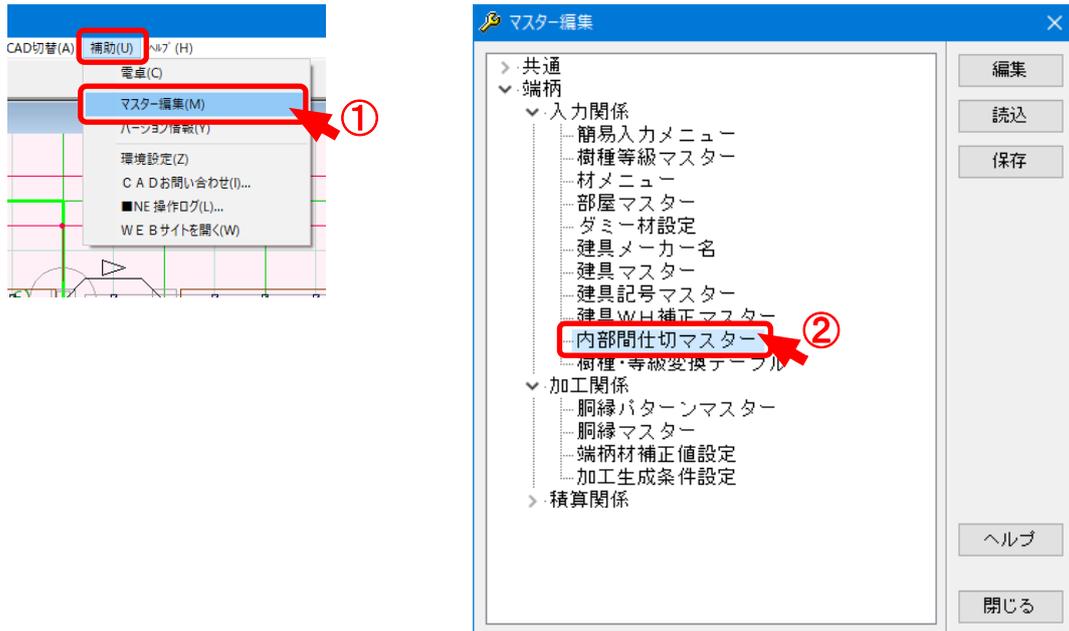


7、木材積算実行

〔積算－木材積算実行〕を実行します。

※頭繋ぎで積算されます。

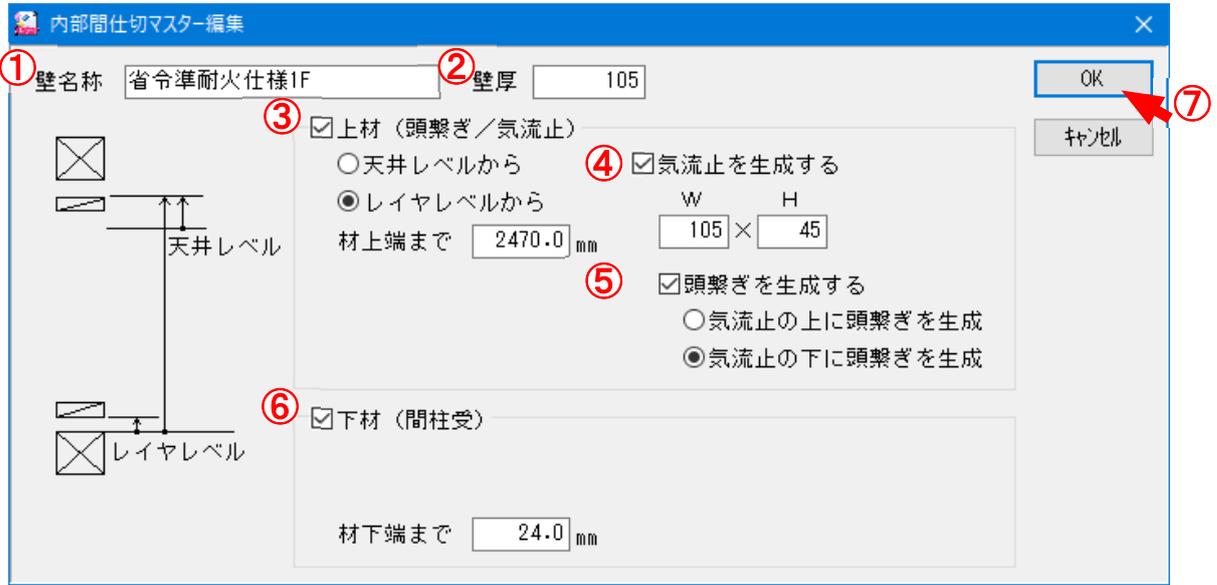
入力関係 — 内部間仕切マスター



内部間仕切マスターでは、間柱受、頭繋ぎ、気流止の生成方法を登録します。

- ① 〔補助 - マスター編集〕を選択します。
- ② 〔内部間仕切マスター〕をクリックします。
- ③ 「追加」をクリックし、マスターを登録します。

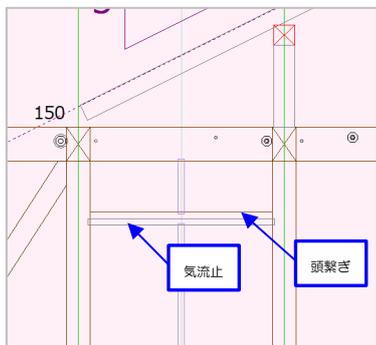
入力関係 — 内部間仕切マスター



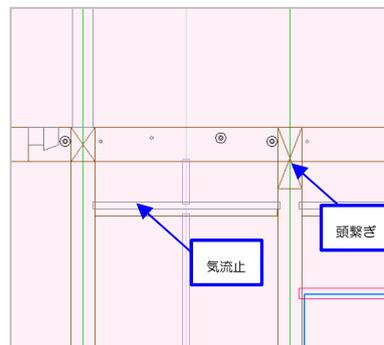
壁名称、上材、下材レベルを指定します。

- ① 壁名称：名称は自由に直接入力できます。
内部間仕切を配置する際に、選択する表示名称になります。
- ② 壁 厚：内部間仕切の壁厚を設定します。
この壁厚から間柱受、頭繋ぎの材巾が決定されます。
- ③ 上 材：頭繋ぎ、気流止めレベルを設定します。
- ④ 気流止めを生成する：気流止めを生成する場合は、チェックを付け、サイズを指定します。
- ⑤ 頭繋ぎを生成する：頭繋ぎを生成する場合は、頭繋ぎの生成箇所を指定します。

< 気流止の上に頭繋ぎを生成 >

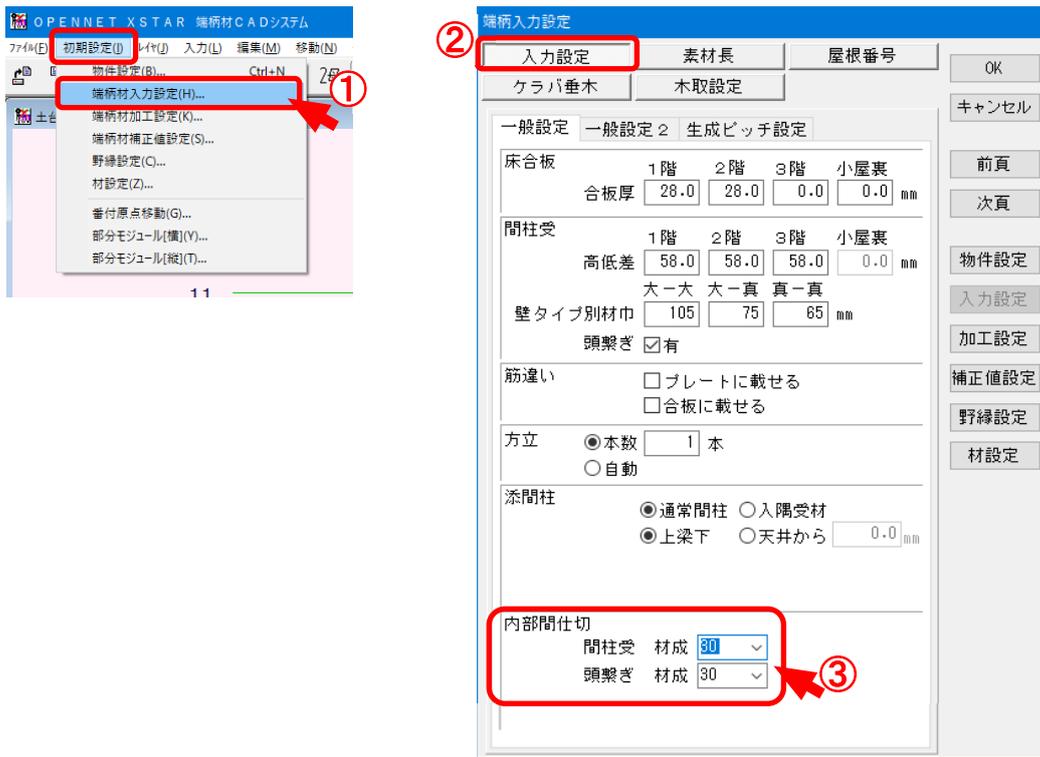


< 気流止の下に頭繋ぎを生成 >



- ⑥ 下 材：間柱受の生成レベルを指定します。
- ⑦ 設定が終了したら「OK」をクリックします。

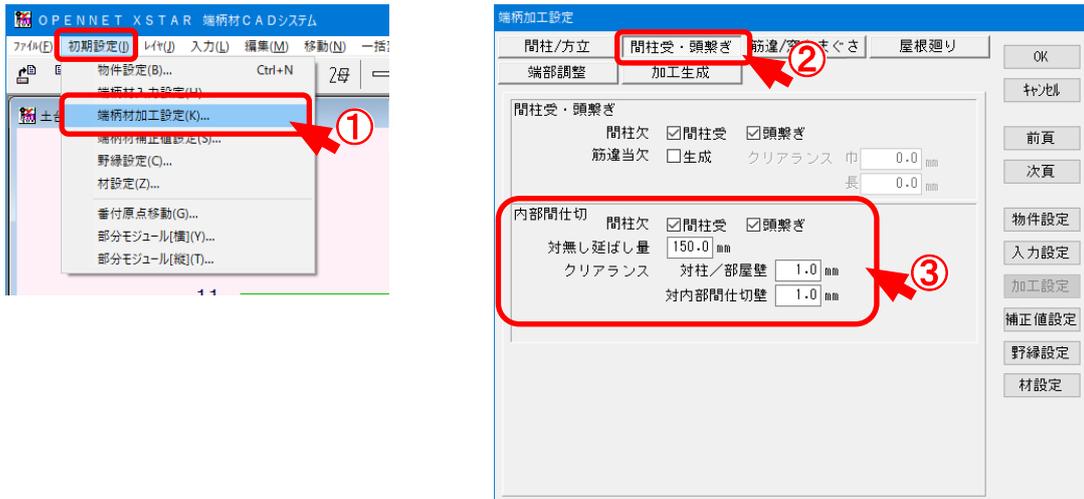
初期設定 — 端柄入力設定



「端柄入力設定」では、内部間仕切で生成する「間柱受」「頭繋ぎ」の使用材成を設定します。

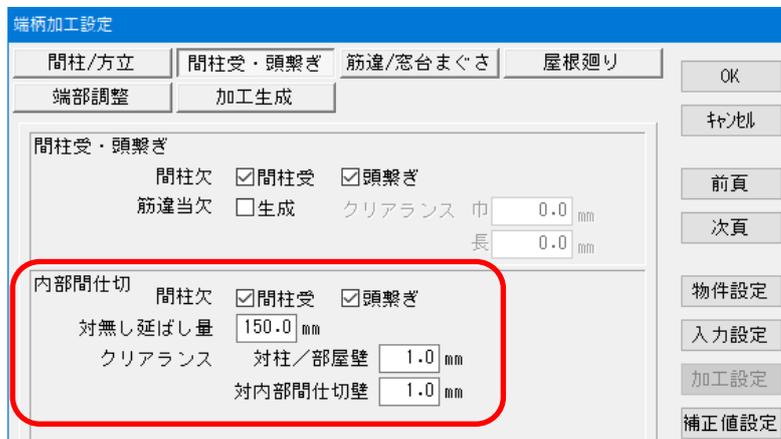
- ① 「初期設定－端柄材入力設定」を選択します。
- ② 「端柄入力設定－入力設定」をクリックします。
- ③ 「内部間仕切」の「間柱受」「頭繋ぎ」の使用材成を設定します。
内部間仕切内に生成される間柱受、頭繋ぎの材成になります。
内部間仕切以外の間柱受、頭繋ぎは「材設定」で設定した材成で生成されます。

初期設定 — 端柄加工設定 / 間柱受・頭繋ぎ



「端柄加工設定」では、内部間仕切の端部の補正値を設定します。

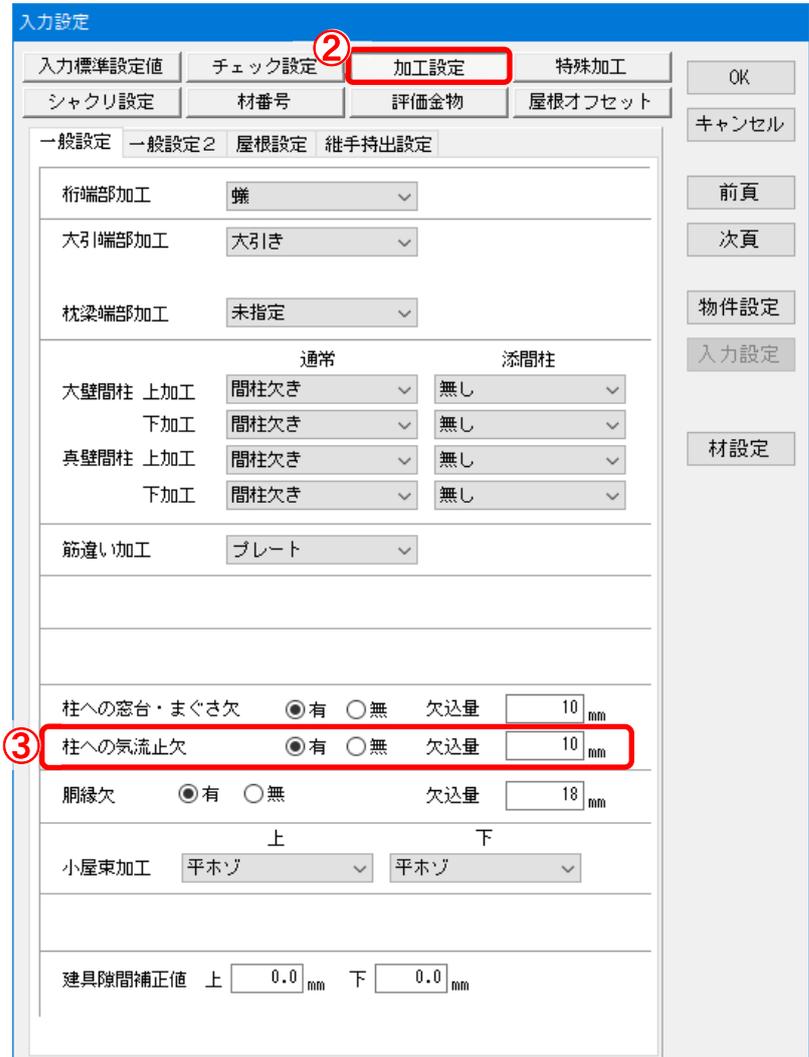
- ① 〔初期設定－端柄材加工設定〕を選択します。
- ② 〔間柱受・頭繋ぎ〕をクリックします。
- ③ 「内部間仕切」の加工、端部の補正値の設定を行います。



- ・間柱欠：「間柱受」「頭繋ぎ」の間柱欠き有無を設定します。
- ・対無し延ばし量：内部間仕切を配置した端に柱、壁がない場合の延ばし量の設定になります。
- ・クリアランス：「柱／部屋壁」：内部間仕切を配置した端に柱、部屋がある場合のクリアランス設定になります。

「対内部間仕切壁」：内部間仕切を配置した端に同様に内部間仕切壁がある場合のクリアランスの設定になります。

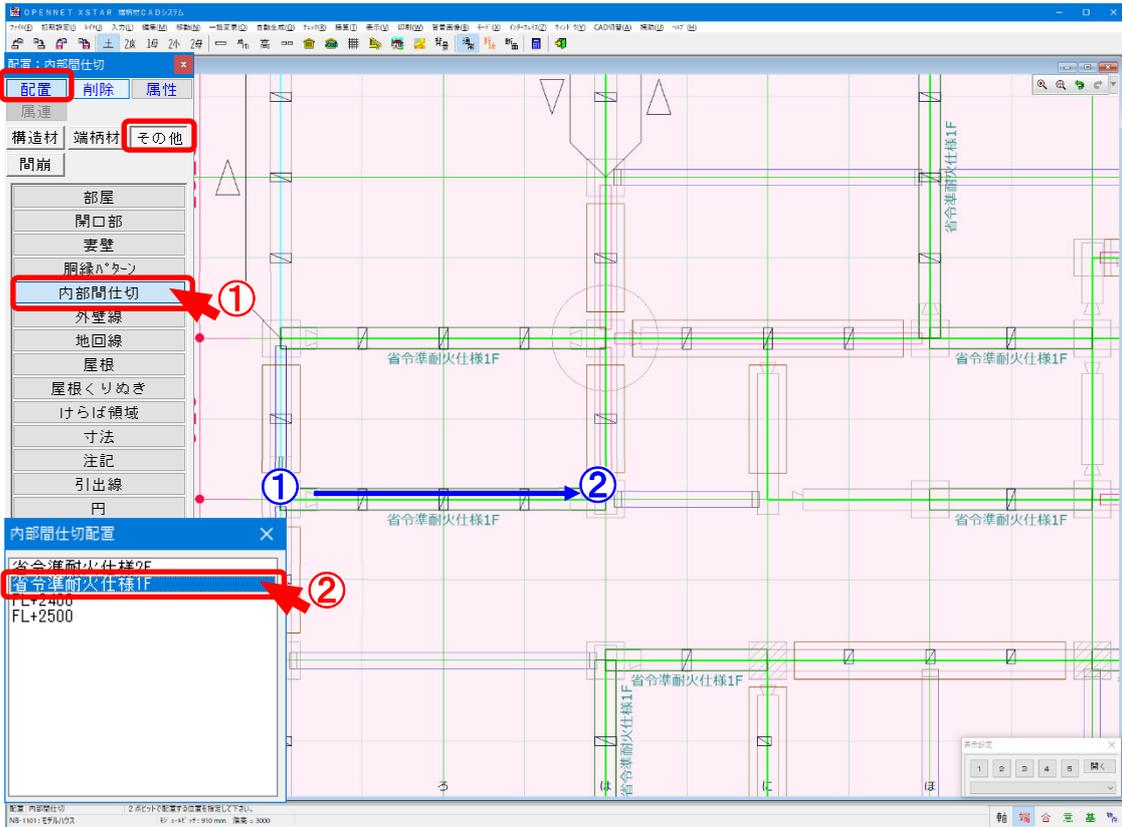
初期設定 — 入力設定



柱への「気流止欠」は軸組CADの加工設定で行います。

- ① 〔初期設定－入力設定〕を選択します。
- ② 〔加工設定〕をクリックします。
- ③ 「柱への気流止欠」の有無を設定します。
欠込量は窓台・まぐさ欠きと同じ値が初期値で設定されています。

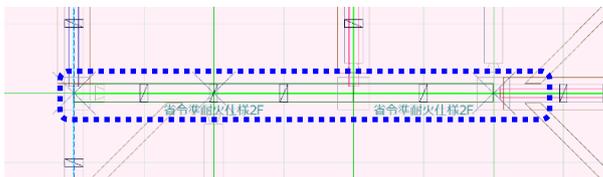
配置 — 内部間仕切



要素メニューから内部間仕切の領域を配置します。

- ① 「配置 - その他 - 内部間仕切」を選択します。
- ② 内部間仕切のパターンリストが開きます。パターンを選択して配置します。
- ①～②点をクリックして配置します。

基本的に内部間仕切の配置点は、柱～柱間を基本として配置します。

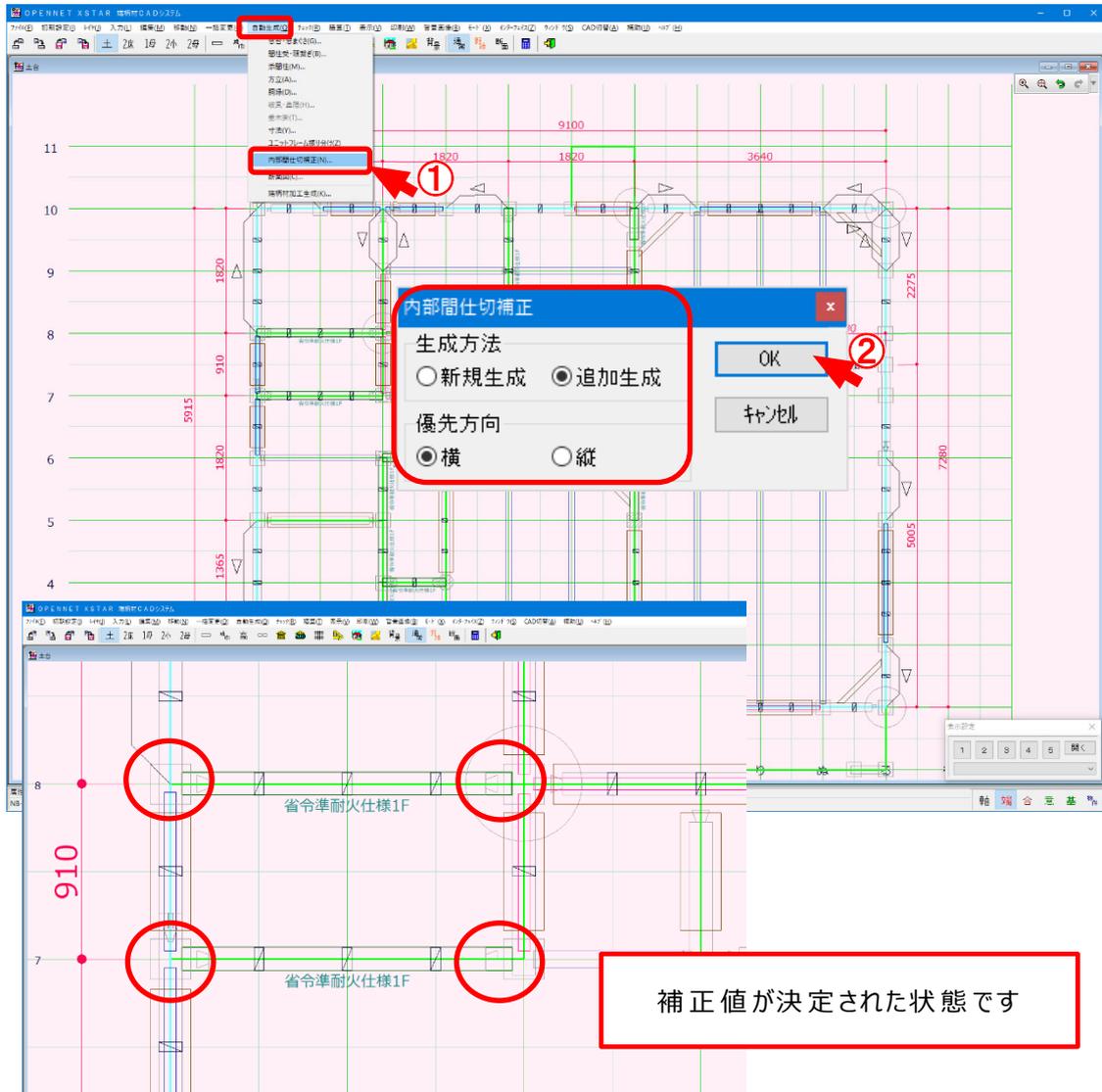


※配置したライン上に柱材・束材がある場合は、その箇所で分割して配置されます。

小屋部分では、部屋の配置がないと内部間仕切は配置できません。

※気流止めを間柱勝にして納めたい場合は、内部間仕切を間柱材を配置点として入力します。

自動生成 — 内部間仕切補正



内部間仕切配置後、内部間仕切補正を実行し、端部の補正値を決定します。

- ① [自動生成 – 内部間仕切補正]を選択します。
- ② 内部間仕切補正の生成方法を選択し、「OK」をクリックします。

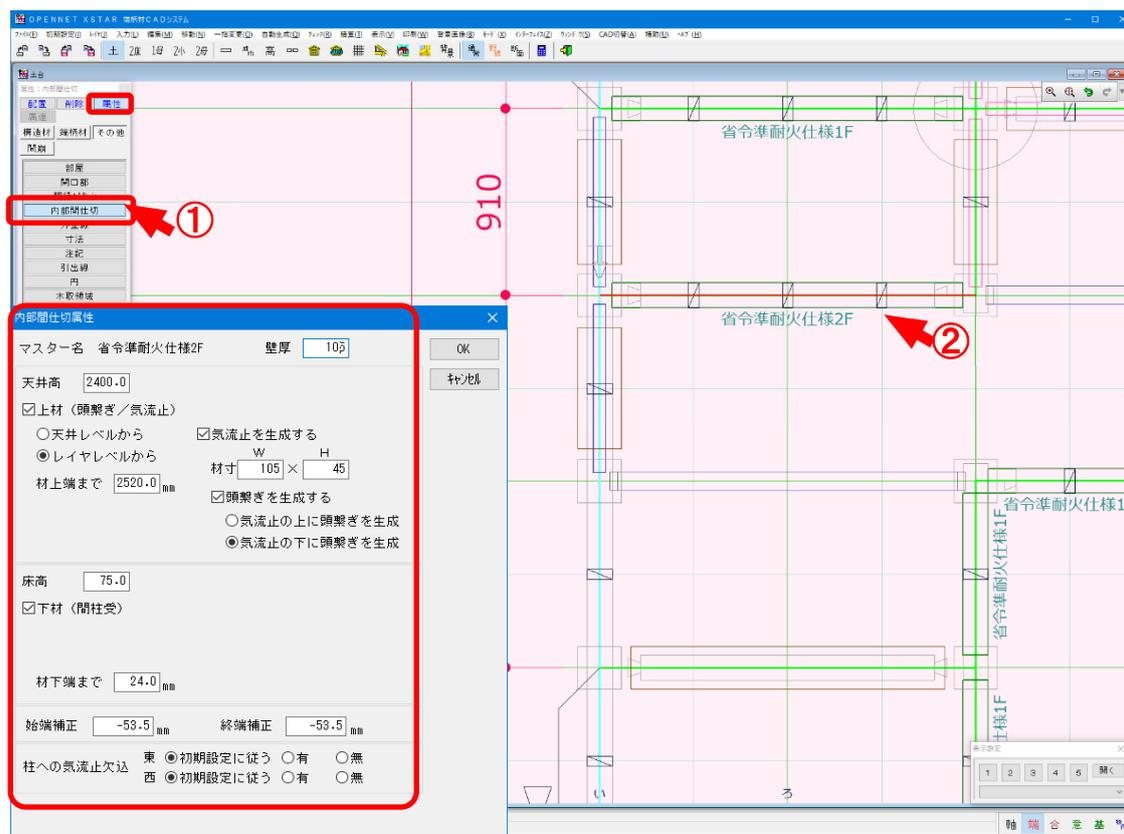
<生成方法>

- ・新規生成：既に補正値が決定している内部間仕切りも補正をクリアして配置します。
- ・追加生成：既に補正値が決定している内部間仕切りはそのまま補正値を決定します。

<優先方向>

- ・優先方向：端部の補正方向を縦・横で指定します。

属性 — 内部間仕切



内部間仕切の属性を確認、変更が可能です。

- ① 〔属性 — 内部間仕切〕を選択します。
- ② 内部間仕切をクリックすると属性が開きます。材レベル、生成内容が確認できます。
〔補助 — マスター編集〕 — 〔内部間仕切マスター〕で登録したマスター内容で配置されます。